

2025 福島U12 インテグリティ講習

“マルトリ”から子どもを救う！ バスケットボールに関わる大人のインテグリティ

豊田 則成

認知行動コーチ

一般社団法人コーチング心理学会 認定: CBC-B298



1

「立場に乗じて卑劣」バスケットコーチに実刑 学校休みがちな被害児童も

〇〇県△△市の小学生女子バスケットボールクラブで起きた強制わいせつ事件。「まさに自身の指導者としての立場に乗じた誠に卑劣で悪質な犯行」。□□地裁△△支部は13日の判決でこう指摘し、コーチである元校長の【実名】被告(71)の行為を厳しく非難した。

判決は、被告が20XX～XX+1年(2年間)、所属する小学校高学年の女子児童3人にそれぞれ複数回にわたって胸や下腹部を触ったり、自身の唇を舐めさせたり、舌と舌を絡めさせたと認定。懲役4年6ヶ月の実刑を言い渡した。

2

事件を機に男性への嫌悪感や不信感を抱き、うつ病と診断され学校を休みがちになった被害児童もいた。判決もこの点に触れ「被告を信頼して娘をクラブに預けながら、逆に娘の心に大きな傷を負わせることになった母親らの処罰感情が厳しいのは当然」とした

被告は公判で「被害者は嘘をついている」などと終始否認し、唇を舐めさせるなどした行為については「向こうからキスをしてきた」と主張した。判決は、児童が訴えた被害の一部は「信用できるのではないか」という思いもあるが、合理的疑いが残る」として認めなかった。だが、証言の多くは信用できるとし、「自身の性欲を満たし続け、常習性が高い」と指摘した。被告の指導者歴は約50年。性被害はいつからあったのか… 【朝日新聞DIGITAL 2024/03/13/21:00】

3

この記事から読み取れること(私見)

- 結局、子どもは守られることはない。
- 実刑判決…実名…△△市…元校長…20XX～XX+1…
- これだけの事実を公表すれば、被害児童やその保護者、周囲の子どもたち、そして、バスケットボールに関係する人々に大きな影を落とすことになっている。
- 待ち受けている不幸は、まだ始まったばかり。
- たとえ被告が実刑となり服役したとしても、被害児童の心の傷が癒えることは決してない。
- 身体の傷は深く跡が残ることがあっても、大抵痛みは癒えていく。心の傷は目に見えないが、一生癒えることはない。

4

指導上の「虐待」に類似した行為

- ① 身体的虐待(暴力・体罰)
- ② 性的虐待(セクハラ)
- ③ 心理的虐待(暴言・虐め)
- ④ ネグレクト(無視・放置)

5

①「なんで、そんなミスをするの？」

【解釈】→「自信」を奪ってしまう。

- 子どもは答えようがない。
- ミスの原因がわかっていたら、きっと自らそれを選択することはない。
- コーチのことがわからない。
- どうすればいいか、教えてもらっていないから。

6

②「できないなら、もういい！」

【解釈】→「自分で考える」を遮る。

- コーチの思い通りに、子どもは実現できないことの方が圧倒的に多い。
- 子どもはコーチに投げ出され、教えてもらえないのが、最も怖い。
- コーチの顔色を伺うようになる。

7

③「もう知らない！勝手にしろ！」

【解釈】→「自立」の妨げとなる。

- どうすればいいのかわからない。
- 勝手にすることさえわからない。
- コーチの思いを優先しようとしても、そこに自分らしさは育たない。

8

④「できないの？ 恥ずかしいね？」

【解釈】→「自責の念」を生じさせる。

- 情けなく思うし、どうしようもない。
- なんでそんなことを言われなきゃならないのかと、子どもは悔しい。
- それでも、できない自分が悪いと思ってしまう。

9

⑤「何回、同じミスをするの！」

【解釈】→「目標」を見失わせる。

- ミスはどうしても生じてしまう。
- ミスを恐れず挑戦するからこそ、子どもは成長していく。
- 否定されるだけでは、先が見えなくなってしまう。

10

⑥「出て行け！ 帰れ！ 顔も見たくない！」

【解釈】→「乖離不安」を生む。

- 人格を否定している。
- 子どもは教えてもらいたい。
- 教えてもらえないかもしれないという不安に駆られる。

11

⑦「みんなの邪魔だ！ 外で見ている！」

【解釈】→「指導」を放棄している。

- 一緒に練習をさせてもらえない。
- 子どものやりたいことを取り上げて、反省させようとしている。
- 子どもに罰を与えることは、教えていることにならない。

12

⑧「あいつ下手だね！なあ、みんな！」

【解釈】→「見せかけの努力」を促す。

- 子どもを虐めているに過ぎない。
- 見せしめにして、コーチが子どもを支配しようとしている。
- 皆の前で晒し者にされるのが嫌だから、懸命に取り組もうとする。

13

⑨「そのプレイが一番嫌いだ！やめろ！」

【解釈】→「安全・安心」を奪う。

- 悲しくて堪らない。
- コーチに受け入れてもらいたいといつも思っている。
- 子どもは、どうすればいいのかわからなくなってしまう。

14

⑩「間違っている！自分で考えて！」

【解釈】→「自立」を誤認している。

- コーチが指導を放棄している。
- どこが間違っていて、どうすれば良いのかについて対話することが肝心。
- 子どもは、どうすればいいのかわからなくなってしまう。

15

アタッチメントのつくり方

- 目を合わせる
 - 笑いかける
 - 語りかける
 - 触れ合う
 - 感謝を伝える
 - 努力や過程を認める
- 信頼関係
ラポール
- 自分のことを
気にかけてくれている
- ↓
- 自分のことを
分かってくれている
- ↓
- 安心して
挑戦することができる

【川上康則 2022 教室マルトリートメント. 東洋館出版社. p.180-181 要約引用】

16